

## 雨畑湖の土砂から砂利生産

ACTIVE KUMIAI



アーチ式コンクリートダム「雨畑ダム」

雨畑開発事業協同組合（井上聰一郎理事長）は、昭和52年に峡南地区と国中地区を中心とした砂利販売業者ら57社によって設立し、雨畑湖から排除される土砂を買い請け、砂利の生産・販売を行っている組合である。しかし、一般的には山梨県の砂利のほとんどは、国や県が管理する河川から原材料を砂利販売業者が買い請け生産されている。

## 雨畑開発事業協同組合

早川町の雨畑湖は、昭和42年に日本で唯一アルミニウムの製錬工場を国内に持つ日本軽金属株式会社により、アルミニウム製造用の電力確保のために建設された民間企業所有のアーチ式コンクリートダム「雨畑ダム」によってできた人工湖である。雨畑湖周辺にはヴィラ雨畑や町営キャンプ場があり、夏には雨畑湖上祭が行われ、秋には紅葉が楽しめる、自然豊かな場所である。また、雨畑で採れる石は粒子が細かく水もちが良いことから、世界でも屈指の良質な硯の産地としても有名だ。

雨畑湖は、自然に恵まれた地区だが、ダム湖には上流から水とともに大量の土砂が流れ込み、堆積する。この土砂は、ダム機能の維持の面からすると好ましいものではなく、災害防止という観点からも排除しなければならぬものである。そこで、県の仲介により山梨県砂利組合連合会と日本軽金属株式会社の間で協定が結ばれ、「たん水区域の公害除去及び機能維持」、「地域の地場産業の育成」の趣旨の下、雨畑開発事業協同組合を設立し砂利採取事業が開始された。

現在では、組合員が24社と減りはしたものの、土砂排除作業を行っているニッケイ工業株式会社との二人三脚により年間50万㎡の砂利採取事業を行い、発足当時の目的を引き継ぎながら産業振興等で地域社会に貢献している。



砂利生産を行うニッケイ工業㈱